

八甲田山の火山活動解説資料（平成 26 年 2 月）

仙 台 管 区 気 象 台
火 山 監 視 ・ 情 報 セ ン タ ー

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過しています。2013年4月下旬から7月中旬にかけて増加した、大岳山頂直下付近が震源と推定される地震活動は、7月下旬以降、減少傾向となっています。

山体周辺の地殻変動観測では、2013年2月頃以降、小さな膨張性の地殻変動がみられていましたが、8月頃から鈍化し、11月頃からは停滞しています。

噴気活動や地殻変動の状況に特段の変化は認められませんが、火山性地震の活動は継続していることから、今後の火山活動の推移に注意してください。

平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況

噴気等の異常に関する通報はありませんでした。

・ 地震や微動の発生状況（図 1～3）

「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」以降、八甲田山周辺を震源とする地震が増加した状態で経過しています。2013 年 2 月以降、大岳山頂直下付近が震源と推定される火山性地震が発生し始めました。この地震活動は 2013 年 4 月下旬から 7 月中旬にかけて増加しましたが、7 月下旬以降は減少傾向となり、今期間も火山性地震は少ない状態で経過しています。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図 4）

国土地理院の広域的な地殻変動観測結果では、八甲田山を囲む一部の基線で 2013 年 2 月頃以降、わずかな膨張を示す地殻変動がみられていましたが、8 月頃から鈍化し、11 月頃からは停滞しています。

気象庁が南荒川山に設置した GNSS 観測装置の連続観測結果では、2013 年 6 月 15 日以降、火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 26 年 3 月分）は平成 26 年 4 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、弘前大学、東北大学、国土地理院、独立行政法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平 23 情使、第 467 号）。

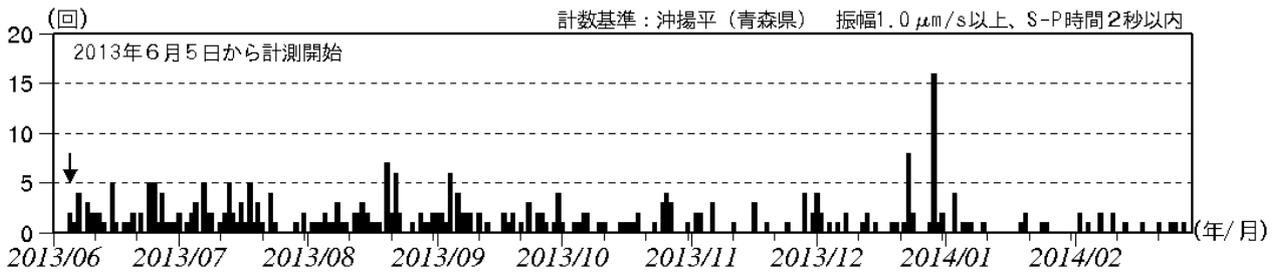


図1 八甲田山 日別地震回数（2013年6月～2014年2月）
 沖揚平（青森県）のデータを元に、2013年6月5日から地震回数の計数を開始しました。

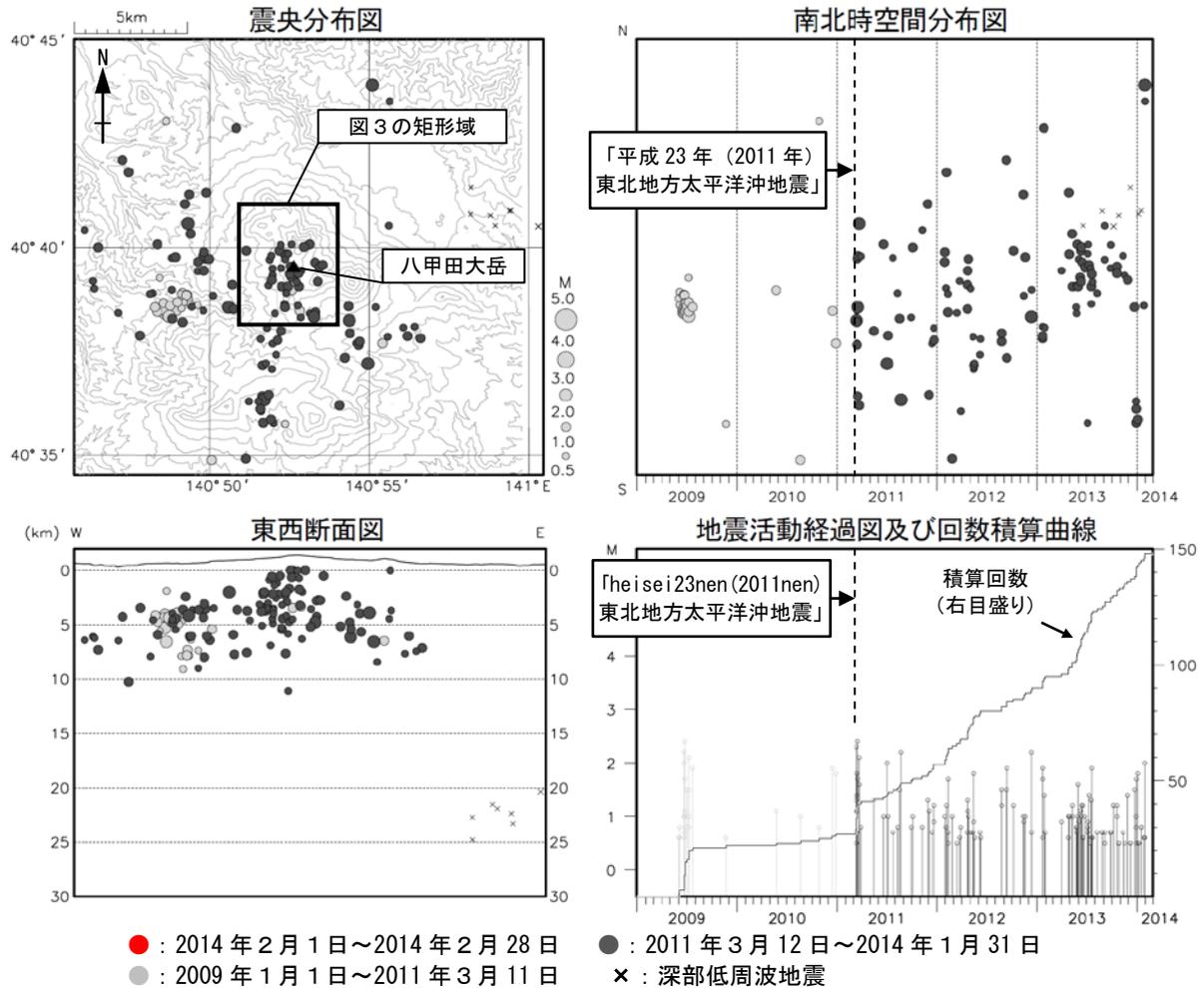


図2 八甲田山 広域地震観測網による八甲田山周辺の地震活動図（2009年1月～2014年2月）
 沖揚平観測点（青森県）が2013年2月14日～5月24日まで障害のため検知能力が低下しています。

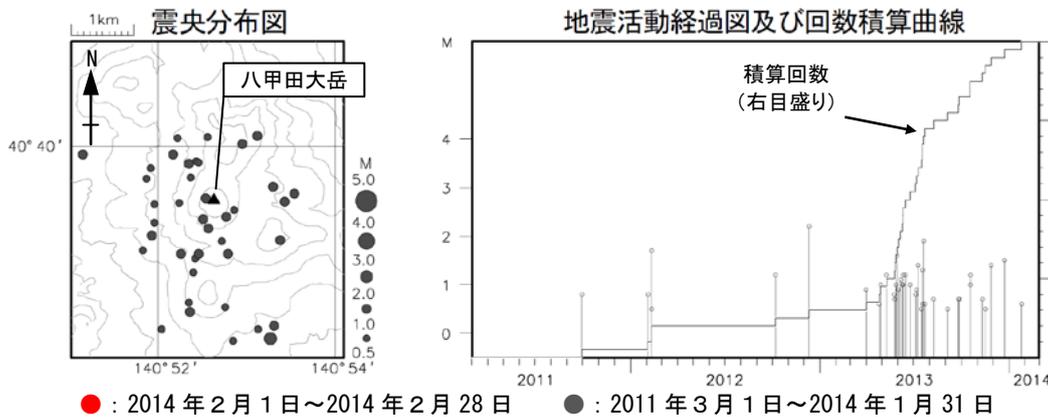


図3 八甲田山 広域地震観測網による八甲田大岳山頂付近の地震活動図
 （2011年3月～2014年2月）

図2震央分布図内の小矩形域を拡大しています。

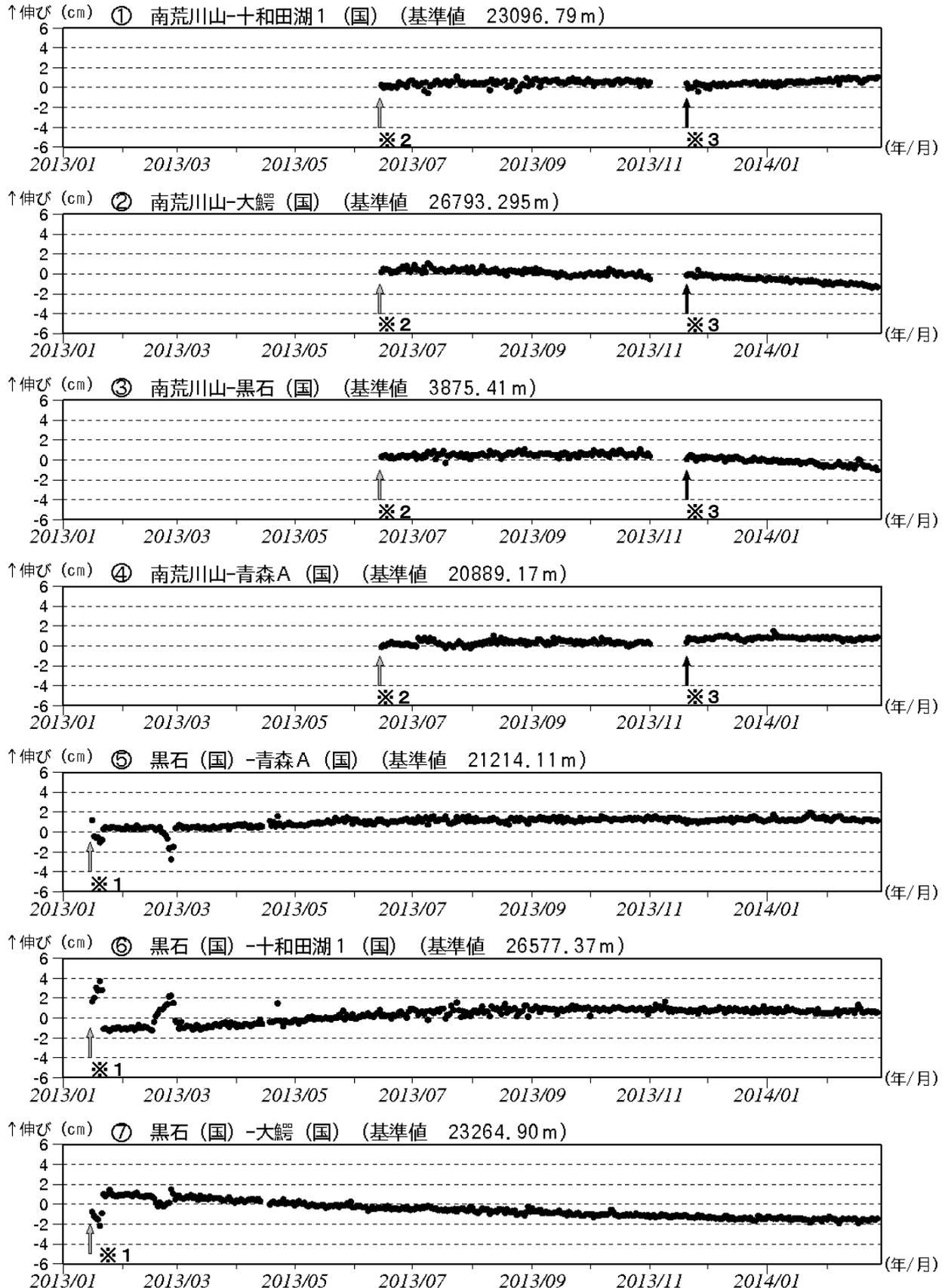


図4 八甲田山 GNSS 基線長変化図 (2013 年 1 月～2014 年 2 月)

- ・①～⑦は図6のGNSS基線①～⑦に対応しています。
 - ・南荒川山観測点では積雪期以降、局地的な変動がみられています。
 - ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・各基線の基準値は補正等により変更する場合がありますが、最新の値のみ表示しています。
- (国)：国土地理院

- ※1 2013年1月16日より解析を開始しています。
- ※2 2013年6月15日より南荒川山の解析を開始しています。
- ※3 南荒川山は、2013年6月15日から11月1日まで臨時観測点として観測していましたが、機器の移設・更新を行い11月19日から観測を再開しています。そのため、基準値を補正して接続しています。

